緊急メッセージ：「スポーツ現場の突然死」について

2024 年 6 月 30 日　インドネシアで開催されたバドミントン・アジアジュニア大会の試合中に悲しい出来事がありました。
日本対中国の団体戦第一試合中に中国選手が突然、コート上に倒れた、というものです。
選手は倒れたあと、その場での胸骨圧迫（心臓マッサージ）も AED の使用もないまま担架で運ばれ、残念ながら病院で死亡が確認されました。
17 歳という若い、有能な選手がスポーツ現場で突然死をとげたことは痛恨の極みであり、深い哀悼の意を捧げます。

スポーツ中の突然の心停止は決してまれではありません。しかし、しっかりと準備をして、素早く AED を用いた救命処置を行うことが出来ればスポーツ中の心臓突然死はゼロを目指すことが出来ます。

今回の出来事について原因の詳細は分かりませんが、AED をすぐに使えば、電気ショックが必要な心停止かどうかをまず器械が判断し、音声で教えてくれるので、それに従ってショックボタンを押せば済むことです。加えてその前後に強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を行うことが救命に重要です。

スポーツの現場には AED が用意されていることが大事で、もし設置されていないことがわかっていれば、緊急時に備えて AED を携行することも勧められます。
また参加選手を含め、関係者はスポーツ開始前に必ず、AED の場所を確認することを習慣にしてください。

そして何よりも、人が目の前で倒れたら医者の到着を待つのではなく、一秒でも早く、現場に居合わせたコーチ、選手、審判、観客の誰もがとっさに手を貸すことが求められます。すぐに手分けして AED を取り寄せ、119 番に通報することが重要です。そのために日頃から訓練をしておくと役に立ちます。
日本 AED 財団ではスポーツ現場における Emergency Action Plan (EAP) （心臓突然死を防ぐための危機管理対応マニュアル）を提案しています。

この不幸な出来事の翌日、2024 年 7 月 1 日に、日本では AED が使えるようになってちょうど 20 周年を迎えました。このような不幸な出来事を繰り返さないためにも、あらためて、皆様に覚えて頂きたい言葉があります。「まず呼ぼう、AED」

令和 6 年 7 月 2 日
公益財団法人　日本 AED 財団